

土佐の南国ルネサンス構想

9

南国市展大盛況の声を聞き、喜んでいたところ、見付けたこのレリーフ(壁画)これもまた「芸術?」。



権堂の表部分に直接、型枠を組み込んだもの。型枠芸術とでもいえばいいのだろうか、とにかく見事なできばえは、芸術の秋にふさわしいものです。

煌(きら)めく
産業元氣都市
▼ 将来像の三本柱の一つである「まちが煌(きら)めく産業元氣都市」とは、どんなまちづくりをめざしていますか。



です。これを最大限に生かさない手はありません。基礎整備をすることによって「元氣のあるまち」を再生していこうというわけです。そして、「誰もが住みたい、働きたい」と思える魅力とにぎわいのある「産業元氣都市」をめざしています。



珍型クリーニング

普通のクリーニングで落ちない汚れの服やズボン。特に汚れのひどいところをタワシのようなものでこすって落とす機械です。



同上 鮎子・洋子 (片山)

アイデアポストより

いま部落は、そして……

を因る」としています。そのためには、後免町を中心とした都市機能を整備すると共に、時代の変化や消費者ニーズにも対応できる商業機能の集積が求められています。

交通関係は、先にも述べましたように陸・海・空のなかめにある有利性を生かした交通基盤の整備や、運輸体系のネットワークを強めていくこととですね。

交通機関と南国オフィスパークや物流基地などのアタマス道路の整備など、ネットワーク強化が求められています。

同和教育シリーズ

市民・県民の意識は? ⑩

「子供のころから偏見を教えられた。私は子供のころ、家族や周囲の人から『ええのすなわち』とされるようなことをするものではない』『悪い子はええにやると』などと言われま

「昭和初期に生まれた私は、部落問題の系統だった内容については無知に近く、一種のタブーとして触れることをさけてきた。今回の講座を受講して、被差別部落が形成された原因が、支配者の都合のよい歴史の書き換えにあると知り、

大きなショックを受け、それ以後も、自分を含めた人間の永い間に培われてきた習慣の根深さに驚きの連続であった。過去はとにかく、現在は部落差別などなくなりつつあると軽い気持ちで受けとめていたが、実際はそんなやさしい問題ではなく、同和教育解決はこれからは本番と思えてきた。解決の方法として、行政、教育の面から根気よく、長期に渡って、諸施策を実施していくてもらいたい。何となく、改革が必要だと思ふ。『そつとしておに』差別なく、いつ

かば消滅していく』とが、同和地区はいろいろ改善され他の過疎地区よりもずっと良くなっていくのではなか。」「などなど、現実が誤解されている点が多い。例えば、同和地区に適用されている特別措置法なども時限立法であるし、法的には確かに通示と比較して大きく改善されていることを現地学習で知ったが、内容の充実はこれからであろう。(以下略)

お二人の感想文からもわかるように、同和教育推進講座を受講する前と、受講後とはずいぶん同和問題に関する意識が変わっています。